

## 願成寺古墳群

文 樋口 禮子



正式には、願成寺西墳之越古墳群と舌を噛みそいな名前ですが、一般に願成寺古墳群といわれ岐阜県の史跡に指定されております。池田山(924m)の東麓大津谷と中谷に挟まれた、小高い扇状地上に114基もの古墳が密集しており群集墳とよばれ県下最大級の古墳群です。

日本国内にある古墳は4〜8世紀の間

につくられており、初期の古墳は地域の豪族たちの権力を示すためのものですが、のち、力をつけた農民層もつくるようになったといわれています。池田町の古墳は6世紀末〜7世紀末につくられたものですが、当時の池田町は天皇領であったので、そこを管理した人達のものではないかという説もあります。

7世紀といえは聖徳太子が法隆寺を建てさらには大化の改新や壬申の乱があったころのことです。古墳には、前方後円墳・前方後方墳・円墳・方墳等がありこのあたりの古墳はすべて円墳です。死者を埋葬し遺体とともに副葬品として、鏡・農耕具・鉄剣・須恵器・勾玉・耳飾等が納められました。

大多数の古墳は横穴式石室を持つ円墳で中でも1号墳の横穴式石室は全長12.7mあり、県下屈指の大きなものです。横穴式は家族なども埋葬することができ、なかには4回の追葬をした古墳もあります。1号墳

と43号墳は中を見学でき奥まで入ることができます。入口から、遺体を安置する石室に至る通路を羨道といい腰をかめないと通れませんが、この通路を抜けると大人が楽に立てる空間が広がっており、ここに遺体を納めた棺を安置したのです。古墳群の丘陵地から東方を眺めれば茶畑が一面に広がり金華山や恵那山、さらには雪をかぶった御嶽山や木曾の山々を望むことができ景観も素晴らしいところです。



▲1号墳



▲43号墳

編集 池田町観光ボランティアガイド協会